

伊丹福音ルーテル教会 主の洗礼主日礼拝のしおり

2023年1月8日

前奏

招きのことば：詩編29編1-4, 11節

【賛歌 ダビデの詩】神の子らよ、主に帰せよ 栄光と力を主に帰せよ 御名の栄光を主に帰せよ
聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。主の御声は水の上に響く。栄光の神の雷鳴はとどろく
主は大水の上にあります。主の御声は力をもって響き 主の御声は輝きをもって響く |
どうか主が民に力をお与えになるように。主が民を祝福して平和をお与えになるように

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

神様は洗礼を設けてくださいました。私たちが信じて洗礼を受けるとき、イエス様とひとつとなります。イエス様はまず洗礼をお受けくださって、私たちを待っていてくださいました。イエス様は洗礼をお受けになったとき、父なる神様から「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者である」と言われ、聖霊が鳩のようにくだりました。私たちも洗礼によって、神様の愛する子、神様の御心に適うものとされ、聖霊によって導かれてきました。新しい年も、イエス様とひとつとされた神様の子どもとして、神様の御心に従って歩ませてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：使徒言行録 10章 34-43節

そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

福音書朗読：マタイによる福音書 3章 13-17節

そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」しかし、

イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

讚美歌 122 番

- 1 緑も深き 若葉の里 ナザレの村よ 汝(な)が巷(ちまた)を
心清らに 行きかいつつ 育ちたまいし 人を知るや
- 2 その頭(こうべ)には かむりもなく その衣(ころも)には かざりもなく
まずしく低き 木工(たくみ)として 主は若き日を 過ぎたまえり
- 3 人の子イエスよ 君の御名(みな)を みつかいたちの 誉(ほ)むる時に
恵みににおい 愛にかおる み足のあとを 我はたどらん **アーメン**

説教：「わたしの愛する子、わたしの心に適う者」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

教会の暦に従って、クリスマスからイースターを経てペンテコステまではイエス様のご生涯でなされたことをたどります。今日はイエス様が公けの生涯の初めに、バプテスマのヨハネから洗礼を受けたというところを共に開きました。イエス様は神の御子です。そのイエス様がバプテスマのヨハネから洗礼を受けています。イエス様はすべてのものをすべ治められているまことの神さまです。確かに私たちのためにクリスマスにお生まれくださって人となってくださいました。私たち人間と同じになってくださったので、人生の様々な葛藤や苦しみに会われました。また罪びとのたちの駆け引きにも、悪魔の誘惑にも会われました。飢えや渇きと言うような肉体を持つ人間としての脆さに苦しむこともありました。けれども罪の性質を受け継いでおらず、罪を犯すこともなかったイエス様が、なぜ、罪の悔い改めのバプテスマであるヨハネの洗礼を受けられたのでしょうか。

イエス様が公けに登場する前に、バプテスマのヨハネは悔い改めのバプテスマ、つまり洗礼をヨルダン川で授けていました。エルサレムとユダヤの全土から、ヨルダン川添いの地方一帯からたくさんの人々が集まって来ました。彼らは罪を告白してバプテスマのヨハネからヨルダン川で洗礼を受けました。あるときバプテスマのヨハネは心の改革の伴わないまま洗礼を受けていく人々に対して、「わたしは水で洗礼をさずけているが、イエス様がきたら聖霊と火で洗礼をお授けになる」と言いました。もうすぐ救い主が来られる。表面的な悔い改めではなくて、心において、また言葉や行動において悔い改めにふさわしい実を結ばないままならば、聖霊と火

のパプテスマによって火で焼き払われることになるかと警告していました。そしてそのときです。そこにイエス様がそこに来られました。するとイエス様はヨハネにお願いして、自分もヨハネから洗礼をお受けになる、とお申し出になったのです。驚いたヨハネは思いとどまらせようしました。「わたしこそあなたから洗礼を受けるべきなのに」とイエス様のお申し出が理解できなかったからです。イエス様は「ただしいことを行うのは、私たちお互いにとってふさわしいことなので、今はとめないで、洗礼を授けていただきたい」と言われました。ヨハネはイエス様の言われることに従ってヨルダン川にて洗礼を授けました。

ただしいこと、とは何でしょうか。それはイエス様をお遣わし下さった神さまの御心を行うことです。神様の御心とは何でしょうか。それはご自分の独り子である何よりも大切なイエス様を私たちのためにお送りくださったことです。イエス様が人として私たちすべての者のかわりに正しい生活をするため、そして、私たちのすべての者の罪の裁きを身代わりになって十字架でお受けくださるため、私たちに新しい命を与えるためにイエス様を死からよみがえらせて、ご自分の右の座におくことでした。父なる神様は父と御子と聖霊の聖名による洗礼によって、信じる者たちをイエス様とひとつとし、イエス様に免じてすべての罪を赦し続け、新しい命を与えるようにと愛をもってお決めになったのでした。

ですから、イエス様は自ら洗礼をお受けになられることで、洗礼を大切にされ、私たちよりもさきに洗礼の中にご自分を置いてくださったのです。それは私たちが洗礼を受ける時、イエス様とひとつとされるためです。悔い改めて洗礼を受ける私たちは、そこでイエス様にあずかり、罪の赦しと新しい命を受けるのです。なぜイエス様は罪びとではないのに洗礼をお受けになったのですか。それは罪びとの私たちが洗礼を受ける時、私たちがイエス様にあずかるようになるためでした。父なる神様はただしく洗礼を受けたイエス様を喜んでくださいました。イエス様とヨハネが水からあがったとき、父なる神様はイエス様を喜んで、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適うもの」と言われました。また神様の霊、すなわち聖霊が鳩のようにイエス様の上に下りました。私たちはみ言葉とひとつとなった洗礼の水によって、神様のちからによって赦しといのちに与りました。罪は洗礼の水で流しさられて赦されます。死は洗礼の水によって神さまの力の中に飲み込まれ命が与えられます。洗礼にあずかった者は罪に死んで新しいいのちに生かされています。罪と死と悪魔の力に勝利されたイエス様を着る者となったのです。洗礼を受けた私たちに対して、私たちひとりひとりの罪を赦そうとお考えになった父なる神様と、その目的のために喜んで人となってくださった御子イエス様と、これらのことを信じることができるようにみ言葉によって働いてくださる聖霊がひとつとなって私たちに関わり続けてくださいます。

私たちは弱い罪びとです。ときには洗礼を受けたのに罪の中に落ち込んでしまうこともよくあります。思いと言葉と行いにおいてよい実を結ばないこともあります。どうすればよいのでしょうか。自分を打ちたたき、自分に罰をくだし、自分を見限るのでしょうか。そうではありま

せん。私たちは罪を犯してしまっても、洗礼を受けた者である事実は変わりません。ですから洗礼の恵みに立ち返るとよいのです。神様は私に洗礼をさずけてくださいました。洗礼によって御子イエス様を着る者としてくださいました。だから私は今、イエス様に立ち返りましょう。私には自分の罪の償いをする事ができません。私は依然としてわがままな罪びとです。しかしその私の罪は、すでにイエス様によって償われ、私は洗礼によってイエス様にあずかる者となって、罪の赦しをいただきつづけます。そして、神様は洗礼の恵みにとどまる私たちの内に新しい心をつくってくださいます。わがままな心と別に、神様を賛美し、イエス様に信頼し、聖霊のお働きを喜ぶ新しい心をつくってくださいます。罪を犯してしまっただけで自分の愚かさ加減を思い知って落ち込んでしまい自力で這い上がる事ができないときこそ、すでに受けている洗礼に立ち返って、そんな私を諦めず、見捨てず、離れずに顧みてくださる父、御子、聖霊のひとりのまことの神様の恵みを味わおうではありませんか。

洗礼で私たちはイエス様とひとつとされました。イエス様という衣を着せていただきました。神様が私たちをご覧になると、イエス様を見てくださいます。父なる神様はイエス様に「これはわたしの愛する子、わたしの心に適うもの」と言われました。そのように私たちも見てくださっています。私たちを洗礼によって神さまの子どもとしてくださり、私たちが神様のことを、天の父よ、とよびかけてお祈りする、新しい心を与えてくださいました。

そうであれば、私たちも神様の御心に従いましょう。あなたのご家庭で親として、子どもとして、兄弟として、自分に与えられた立場で正しいことを心を込めて言葉にあらわし、行い、実現するように祈り求めましょう。学校で、職場で、近隣での生活を諦めることなく、手間がかかっても忍耐をもって正しくことを運びましょう。自分に与えられた使命をしっかりとわきまえて、神様の子どもとして臆することなく、共に歩む人々とともに幸せをつくりあげていきましょう。またとくに教会でお出会いしているお互いは神様の子ども同士、兄弟姉妹です。同じキリストのからだを構成する大切な仲間です。同じイエス様に罪を赦していただいている聖徒です。よく知り合い、祈りの課題を分かち合い、少しずつでも心を開きあって、共に喜び、共に泣いて、イエス様にあつて赦しあつて、徳を高めあつて、歩みましょう。お世話をくださる方々に感謝をあらわし、この地でイエス様の福音が継ぎ目なく宣べ伝えられるように、教会の歩みを意識してともに支えてまいりましょう。

クリスマスにお生れになったイエス様は公けのご生涯をバプテスマのヨハネから洗礼を受けることによってお始めになりました。イエス様はなぜイエス様は洗礼をお受けになったのでしょうか。それは、その洗礼によって私たちがイエス様を受けることができるため、イエス様によって赦しといのちにあずかるためでした。神様の子どもとされたことを感謝をして、思いと言葉と行いにあつて実を結んで歩みましょう。

そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。
マタイによる福音書 3章 17節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなされたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン
だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

主の食卓へようこそ。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讚美歌 121 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 馬舟の中に 産声あげ 木工(たくみ)の家に 人となりて
貧しき憂い 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ
- 2 食する暇も うち忘れて しいたげられし 人を訪ね
友なき者の 友となりて 心くだきし この人を見よ
- 3 すべてのものを 与えしすえ 死のほか何も 報いられて
十字架のうえに 上げられつつ 敵を赦しし この人を見よ
- 4 この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ **アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏